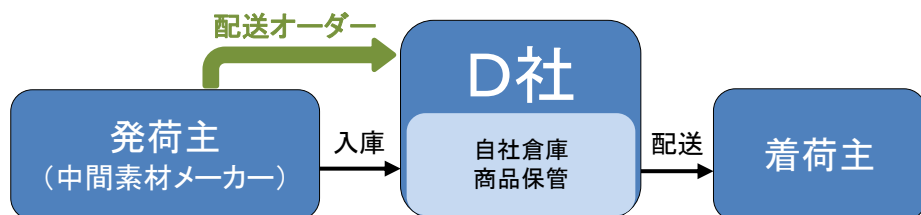


法人：D社
労働者数：約500人
主な荷：化学製品

倉庫に自動荷役システムを導入し、 自動倉庫化することにより、倉庫 作業の省人化と安全化を実現

◆ 運送形態 ◆



主な取組のポイント

トラック事業者の取組

1 デジタル化の推進

デジタルタコグラフから算出されるトラック運転者の労働時間や拘束時間を労務管理・運行管理を行う部署がタイムリーに把握・管理し、ドライバー毎の労働時間を毎月定期に確認し、各ドライバーに業務が偏り、長時間労働とならないよう配車調整等を行っている。

2 自動荷役システムの導入

- ・ 自社倉庫内に、無人フォークリフトを導入。この無人フォークリフトが、倉庫内の各棚毎の在庫保管状況に合わせて、最も効率的に荷の取り出しや、保管を行うための導線を選択するという機能も独自開発し、これを運用することで、無人エリアでの全自動荷役を実現した。これにより、倉庫作業員の人出不足や時間外労働縮減につなげている。
- ・ さらなる省人化に向け、自社構内における各倉庫間の搬送業務について、無人トラックによる場内自動搬送システムを試行導入、フォークリフトオペレーターのタブレット操作による大型トラックの無人運転実現のための実証実験を産官学連携の下で行っている。



【無人フォークリフト】



【走行中の無人トラック】

荷主と連携した取組

主要な発荷主 X 社と定期的に物流会議を行い、同社の協力の下で以下の取組を実施。

1 出荷注文締切時間の明確化

発荷主 X 社との間で、従前明確な取り決めがなかった出荷注文の締切時間を設定したことで、倉庫での荷役作業時間や荷待ち時間が短縮され、時間外労働を削減した。

取組前：当日夕刻まで

取組後：前日12:00(正午)まで（やむを得ない事情がある場合は当日14:00まで）

【発荷主 X 社による取組】

X 社が自社の各営業担当者へ、D 社が行う配送業務の効率化への協力の観点で、月末集中出荷の是正を指示。同週内納期や発着荷主側の締日といった事情で出荷依頼が集中する特定日の注文を分散させることにつながった。

2 鉄道貨物輸送（モーダルシフト）の実施

輸送時の安全確保と慎重な荷役作業が求められる危険物の輸送について、①ローリー車で納入していた納品先の約90%、②長距離輸送の一部を自動車輸送から鉄道貨物輸送にシフト（混載輸送については発着荷主判断によるオーダーに従う。）したことで、ドライバーや荷役作業員の労働時間の縮減につながった。

3 出荷量の平準化

上記の出荷注文締切時間の明確化により、事前の出荷量の把握が可能となったことで、出庫業務や梱包業務を取組以前に比べて前倒しで行えることとなり、一日の作業時間の平準化と配車の効率化につながった。

4 荷のパレット化

2014年から、発荷主 X 社と X 社製品の納入先となる着荷主双方の合意形成の下で出荷品のパレット化を進めている。標準サイズのパレットは発荷主 X 社が用意している。現在は全ての X 社製品納入先のほぼ全ての配送をパレット輸送で実施している。

【以上による取組の効果】

- ・ ドライバーの拘束時間の削減。
- ・ 出荷量の平準化や荷のパレット化による荷待ち時間の縮減
取組前： 平均 2～3時間（2013年以前）※荷役時間含む
取組後： 平均 0.5時間 ※荷役時間含む
- ・ 事業場全体の年次有給休暇取得率は80%超。

※以上の数値は全て概算値となります。